

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H04537

研究課題名（和文）ポスト軍政期ミャンマーにおける宗教NGOの人類学的研究

研究課題名（英文）Anthropological Studies of Religious NGOs in Myanmar's Post-Military Period

研究代表者

土佐 桂子（Tosa, Keiko）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：90283853

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,900,000円

研究成果の概要（和文）：本科研では、ミャンマーで増加しつつある宗教（信仰）基盤組織を「宗教NGO」（religious NGO）として対象化し、現地調査を通じてその実態を明らかにした。仏教系の宗教組織においては、喜捨による積徳行を主目的とする伝統的宗教組織と類似が観察されるが、同時に宗教実践や倫理において、変容が見られた。また葬式支援組織の事例は、都市など集住地域で葬儀の火葬化が進むなかで、宗教、民族、地域を超え、類似の形態が広範囲に広がったことを示している。これら事例の考察により、宗教の福祉研究に対し、モノや技術の革新、宗教倫理、世俗化、社会運動、ガバナンス等、新たな視点から考察することが可能となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義は（1）上座部仏教の福祉的側面について、従来、功德と贈与論、あるいは宗教的な利他行為という観点からの研究が蓄積されてきたが、さらにモノや技術の革新、宗教倫理、世俗化、社会運動といった視点から切り込む可能性を得たこと、（2）宗教NGOへの参加を、市民のガバナンス参与経験の蓄積という観点からとらえ、民主主義の広がりという政治的テーマを人類学的アプローチから考察する回路を開いたこと等である。また、これらの視点は2021年の軍事クーデター以降の市民による抵抗運動の広がりや、軍の実効支配を崩し市民が統治する「解放区」の拡大等の現状を解明する可能性を有し、重要な社会的意義を有している。

研究成果の概要（英文）：In this study, we targeted religious NGOs, which have been increasing in number in Myanmar since 2000, and clarified their activities through field research. Particularly, Buddhist organizations were observed to share similarities with traditional religious organizations whose main focus is merit-making through giving. However, changes in religious practices and ethics were also observed. Funeral support organizations are spreading widely in Myanmar, transcending religious and ethnic boundaries, as the use of cremation for funeral rites continues to increase in various regions. Through the examination of these cases, new perspectives have emerged for the study of religious welfare, including innovation in goods and technology, religious ethics, secularization, social movements, and governance.

研究分野：文化人類学

キーワード：宗教 NGO 贈与 福祉 ガバナンス

1. 研究開始当初の背景

ミャンマーでは、2011年に民政移管が実現し、半世紀続いた軍事政権に一端終止符が打たれた。しかし他方で宗教・民族対立、社会的格差の増大といった問題も表面化しつつあった。こうした変化のなかで、ミャンマー社会は今後どのような形で再編成されていくのかを見極めることは極めて重要な課題であった。そこで着目したのが、宗教を背景として草の根で組織化されてきた NGO (Non-Governmental Organization) である。

学術的には、NGO は以下の2つの方向性から議論されてきた。

1. 市民社会の展開としての NGO: 西欧で用いられてきた市民社会という概念は、東欧諸国の民主化革命でリバイバルした。とくにポスト社会・共産主義圏で市民社会の強弱が民主主義への動きと重ねて語られる傾向が存在し、ミャンマーも同様である。その際に市民社会の事例として伝統的に存在した地域の互助組織や宗教(信仰)を基盤とする組織(FBO: Faith Based Organization)が注目されてきた(例えば BCN TNI 1999; Kyaw Yin Hlaing 2004; ADB2015; McCarthy S. 2012; Prasse-Freeman 2012; Lorch 2006)。

2. 開発や福祉推進における宗教の役割: 開発促進アクターとしては、従来は国家の ODA などが期待されたが、1980年代以降より機敏に動けるという点から NGO が重視されるようになった。ただ、こうした開発や人道支援は、世俗的活動が前提とされてきた。他方で、2000年代世銀の方針転換もあり、宗教を核とする NGO やアクターなど、宗教の重要性が指摘されるようになり(Marshall and Keough 2004)、宗教 NGO に対する研究も増加しつつある(Fountain 2013 など参照)。ミャンマーの場合、いわゆる国際 NGO はネーウィン社会主義政権以来、国際赤十字社など一定程度存在するものの、かなり制限されており、伝統的ともいえる宗教(信仰)基盤組織(FBO)のほか、コミュニティを基盤とする互助組織が主流とならざるをえなかったという状況があった。

2. 研究の目的

本科研では、ミャンマーで2000年以降増加しつつある主に宗教(信仰)を基盤とする組織を「宗教 NGO」(religious NGO)として対象化し、現地調査を通じてその実態を明らかにすることを目的とした。具体的には、ミャンマーにおける民主化プロセスの動態を草の根レベルで明らかにし、同時に宗教の社会的付置の変容を解明する。さらに、従来分断されて論じられがちな NGO 研究と宗教研究を架橋することを目指すものである。

3. 研究の方法

研究方法としては以下の3点から行った。

(1) 宗教 NGO を取り巻く社会環境・法制度の把握

ミャンマーの宗教 NGO の活動は、既存の宗教組織や NGO との密接な関係の中で展開してきた。いわゆる伝統的宗教組織の歴史的展開を踏まえ、そうした伝統的組織との連続性の中でとらえることを試みた。加えて、組織形成にはそのときの政権の方針が深くかわるかわるため、2014年に制定された組織登録法(Registration of Association Law (RAL 2014))を精読し、加えて、実際の組織化や活動と法的背景との関連について調べた。

(2) 宗教 NGO の実態解明

個々の宗教 NGO において参与観察を行い、その実態(設立背景、民族・ジェンダー、世代などの組織構造、活動内容)を実証的に明らかにすることを試みた。一般的には NGO は非政府系組織を指し、本研究で対象とする組織は当然その範疇に含まれる。ただ現地で「NGO」というとグローバル活動を行う国際 NGO (INGO) に限定されるため、イーミックな用語を基盤として、調査はローカルレベルで結成された組織(アティンアポエ)に限定し、とりわけ葬式や救急支援、教育支援、あるいは災害支援などを目的に結成された組織に焦点を絞ることとなった。

具体的には3管区(ヤンゴン管区、マンダレー管区、バゴー管区)、3州(シャン州、チン州、カレン州)等で現地調査を行い、宗教(仏教、イスラム教、キリスト教)を基盤とするもののほか、民族(シャン族、パラウン族等)を基盤とするものなどを対象とした。また、宗教 NGO にとどまらず、他のコミュニティ組織、民族組織やいわゆる国際 NGO などとの相互関係なども考察した。

(3) ミャンマー研究を軸にした NGO 研究、宗教研究の理論的検討

本科研で扱う宗教 NGO に関わる研究は、国際的に増加しつつある。加えてミャンマーで進行しつつある草の根レベルの組織化に関する研究も出てきている。こうした文献研究を同時並行しつつ、NGO 研究や宗教研究に対する理論的検討を行った。

4. 研究成果

科研分担者によるそれぞれの研究発表、成果のほか、科研全体では(1)の形で成果報告を行い、(2)については現在準備中である。

(1) ミャンマーでのセミナー開催と成果報告

ミャンマー連邦ヤンゴン大学においてミャンマー人人類学者とともに国際セミナー (Anthropological Study on Religion: Activities of CBOs and NGOs in Myanmar, 2019/8/23) を開催した。セミナーは3つのセッションに分け、(1) 仏教徒コミュニティにおける各組織の展開、(2) キリスト教徒、イスラームなど宗教マイノリティにおける組織のありよう、(3) シャン、パオ、パラウンなど民族マイノリティにおける組織等の報告を行った。ミャンマー人人類学者との議論を通じて、地域コミュニティと草の根組織の関係に着目しつつ、仏教における功德概念の変容、地域開発や住民エンパワーメントとの関連、互助組織間の競合や国際 NGO との連携などに関わる考察を深めた。本シンポジウムでの議論を反映させ、参加者が論文を執筆し、改めて会議録 (Proceedings) として発行した (業績: 成果学会発表 2019、図書 2022)。

(2) 書籍刊行準備

上記の会議録とは別に書籍の発行を準備している。上記の会議録は基本的には 2019 年のシンポジウム原稿をもとにしてまとめたもので、データはそれ以前の調査に基づいている。しかし 2021 年 2 月 1 日にミャンマーでは国軍によるクーデターが生じ、上記の宗教 NGO、あるいは福祉事業を行う組織は大きな影響を受けることとなった。コロナ感染症とクーデター以降の不安定な政治状況によりミャンマーでの現地調査が難しく、刊行が遅れているが、可能な範囲で現在の状況を組み込んだ形で研究意義を再考しつつ、書籍としてまとめる。書籍は以下のような特色を持つ。

まず宗教研究に対して、とくに上座部仏教の福祉的側面に対して、これまで功德と贈与論、あるいは宗教的な利他行為という観点における研究が蓄積されてきたが、こうした研究に対して、モノや技術の革新、宗教倫理、世俗化、社会運動といった視点から切り込む。

また、民主主義の獲得や広がりという政治的テーマに対して、人類学的アプローチを通して、一般の市民の側のガバナンスへの参与プロセスに着目し、草の根レベルの民主主義実践を考察する回路を開く。民主主義に関する議論は、市民社会の存在を前提としつつも、その内実が議論されることは必ずしも多くない。書籍は「市民社会」と呼ばれるものがいかに構築されるかを、人々の日常的な実践というミクロなレベルから明らかにすることになる。

最後に、書籍はクーデター以降の抵抗運動の組織的広がりや、少数民族地域や軍統治地域内に民主化勢力によって作られつつある「解放区」とその統治を解明する手掛かりとなることが期待される。そもそも、国家・政府の一元的統治という意味での「ガバメント」に対して、多様なアクターの共同統制的な意味合いを中心とした新たな統治概念としての「ガバナンス」に注目が集まっている。本科学研究ではガバナンスを「権利、サービス、財に対するアクセスと提供の管理」ととらえ、こうした草の根組織 (アティンアポエ) への参与は、福祉的事業という枠内ではあれ、アクターらがガバナンスに関与し、管理・分配の能力を獲得していくプロセスを示しているともとらえることができる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 藏本龍介	4. 巻 85(4)
2. 論文標題 序（特集：社会を想像 / 創造する贈与：インド系宗教の現代的展開から）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 659-671
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藏本龍介	4. 巻 85(4)
2. 論文標題 「善行」が想像 / 創造する組織：ミャンマーのダバワ瞑想センターを事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 730-749
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯國有佳子	4. 巻 33
2. 論文標題 現代ミャンマーの宗教的ランドスケープをめぐる一考察：タイツに関する言説と実践の事例から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 パーリ学仏教文化学	6. 最初と最後の頁 39-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斎藤紋子	4. 巻 30
2. 論文標題 ミャンマーにおけるムスリム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ロヒンギャ難民の生存基盤 ビルマ / ミャンマーにおける背景と、マレーシア、インドネシア、パキスタンにおける現地社会との関係	6. 最初と最後の頁 19-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藏本龍介	4. 巻 6
2. 論文標題 組織の人類学に向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 南山大学人類学研究所 研究論集	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 生駒美樹	4. 巻 22
2. 論文標題 パトロン=クライアント関係と負債 ミャンマーのチャ摘みの事例から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 白山人類学	6. 最初と最後の頁 17-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 KURAMOTO, Ryosuke	4. 巻 4
2. 論文標題 Monks' Lives Shaped by Food: A Case Study in Myanmar	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Religious Studies in Japan	6. 最初と最後の頁 47-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 TAKATANI Michio	4. 巻 Vol.1, No.1
2. 論文標題 How the Bamar saw the Shan in the Pre-Modern Period	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Journal of Tai Studies	6. 最初と最後の頁 131-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 19件）

1. 発表者名 Kuramoto Ryosuke
2. 発表標題 Attempts at “Homelessness” : the nonreciprocal relationship between monks and lay people in modern Myanmar.
3. 学会等名 AAS (Association for Asian Studies) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tosa Keiko
2. 発表標題 How we can change our own fate: Astrology and the manipulation of “dat”
3. 学会等名 International Conference on Burma/Myanmar Studies (ICBMS3) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高谷紀夫
2. 発表標題 シャン民族知とそのパブリシティ
3. 学会等名 文化人類学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 生駒美樹
2. 発表標題 生葉売買をめぐる製茶工場と農家の駆け引き：ミャンマー、シャン州ナムサン郡を事例に
3. 学会等名 熱帯生態学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 生駒美樹
2. 発表標題 チャ摘みをめぐる農家-労働者関係の動態： ミャンマー、シャン州パラウン自治区ナムサン郡を事例に
3. 学会等名 東南アジア学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 生駒美樹
2. 発表標題 経済的・社会的格差のある二者の共生ーミャンマーのチャ農家とチャ摘み労働者の事例から
3. 学会等名 生態人類学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 TOSA, Keiko
2. 発表標題 The Diffusion of Free Funeral Services (Naye Kunihmu Athin) among the Burmese Buddhist Society
3. 学会等名 Anthropological Study on Religion: Activities of CBOs and NGOs in Myanmar (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 TAKATANI, Michio
2. 発表標題 Shan/Tai New Year Festivals in Myanmar
3. 学会等名 The Centenary of the University of Yangon, International Conference and Round-table Discussion on Anthropology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 TAKATANI, Michio
2. 発表標題 An Anthropological Study of Shan Knowledge-Based Organization in Myanmar
3. 学会等名 Anthropological Study on Religion: Activities of CBOs and NGOs in Myanmar (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KURAMOTO, Ryosuke
2. 発表標題 How can we envision: the Anthropology of Buddhism?
3. 学会等名 SEASIA Biennial Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KURAMOTO, Ryosuke
2. 発表標題 Organizational characteristics of Thabarwa Center in Thanlyin
3. 学会等名 Anthropological Study on Religion: Activities of CBOs and NGOs in Myanmar (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 IIKUNI, Yukako
2. 発表標題 Toward Multispecies Buddhism: A Study Concerning Spiritual Beings in Myanmar
3. 学会等名 SEASIA Biennial Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 IIKUNI, Yukako
2. 発表標題 A case study of network and relationship between CBOs in Mandalay and Pye
3. 学会等名 Anthropological Study on Religion: Activities of CBOs and NGOs (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SAITO, Ayako
2. 発表標題 Muslim Civil Society Organizations in Yangon and Mandalay
3. 学会等名 Anthropological Study on Religion: Activities of CBOs and NGOs (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯國有佳子
2. 発表標題 「見えないもの」の捉え方：現代ミャンマーにおける霊的存在をめぐる実践についての考察
3. 学会等名 パーリ学仏教文化学会 第33回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 TAKATANI, Michio
2. 発表標題 Water and Prayer in Japan
3. 学会等名 International Conference on Traditions of Water: Beliefs, Practices and Transformation (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tosa, Keiko
2. 発表標題 Transformation of Buddhist Associations into Non-Governmental Organizations in Myanmar
3. 学会等名 13th International Burma Studies Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tosa, Keiko
2. 発表標題 Dhamma School and religious education in Myanmar
3. 学会等名 Rethinking “Community” : from Case Studies in Mainland South East Asia, University of Yangon
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Saito, Ayako
2. 発表標題 Muslim Non-Governmental Organizations in Myanmar
3. 学会等名 13th International Burma Studies Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Saito, Ayako
2. 発表標題 Historical narratives in a Myanmar Muslim community
3. 学会等名 Rethinking “Community” : from Case Studies in Mainland South East Asia
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Saito, Ayako
2. 発表標題 The History and Current Situation of Bamar Muslims: The difference in ethnic consciousness between Bamar Muslims and the Buddhist majority
3. 学会等名 Myanmar Update 2019: Living with Myanmar (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 IIKUNI, Yukako
2. 発表標題 I Won't Take Even 1/100 Kyat: Donation and Trust in Local 'Parahita' Organizations
3. 学会等名 The 2nd Burma Review And Challenges International Forum 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯國有佳子
2. 発表標題 ミャンマーにおける女性修行者の出家生活と律
3. 学会等名 龍谷大学アジア仏教文化研究センター2018年度第2回国際シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯國有佳子
2. 発表標題 ビルマ宗教再考のための試論：タイツに関する言説を中心に
3. 学会等名 ビルマ研究会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏本龍介
2. 発表標題 ミャンマーにおける出家者の開発実践の変遷と行方
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏本龍介
2. 発表標題 現代ミャンマーの僧院生活
3. 学会等名 龍谷大学アジア仏教文化研究センター2018年度第2回国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 生駒美樹
2. 発表標題 チャをめぐる生産者の負債と関係 ミャンマーの茶生産を事例に
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所シンポジウム 負債をめぐるポリティクス 東南アジア、オセアニア、アフリカの事例から
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tosa Keiko
2. 発表標題 Uncivil NGOs: Mabatha and Confessional Communalism in Myanmar
3. 学会等名 CHARITABLE FAITHS: NGOS AND RELIGION IN ASIA, Workshop, Institute on Culture, Religion, and World Affairs (CURA) at the Pardee School for Global Affairs, Boston University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土佐桂子
2. 発表標題 社会的ジャスティスの希求が生み出す排除：ミャンマーにおける民族宗教保護協会をめぐって
3. 学会等名 文化人類学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藏本龍介
2. 発表標題 律遵守の僧院をつくる：ミャンマー・「森の僧院」の挑戦
3. 学会等名 「宗教と社会」学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 TAKATANI Michio
2. 発表標題 Material Culture in Shan (Tai/Tay:) Cultural Area (SCA)
3. 学会等名 The 3rd Conference of Tai Society for Historical Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 斎藤紋子
2. 発表標題 報告1 ミャンマー社会と多宗教・多民族共生の難しさ：ムスリムの事例から
3. 学会等名 東南アジア学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 Tosa Keiko, Iikuni Yukako, Ikoma Miki, Kuramoto Ryusuke, Saito Ayako, Takatani Michio	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 186
3. 書名 Anthropological Studies of CBO and NGO Activities in Myanmar	

1. 著者名 藏本 龍介	4. 発行年 2023年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 350
3. 書名 宗教組織の人類学	

1. 著者名 Keiko Tosa, Saito Ayako	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Silkworm Books	5. 総ページ数 320
3. 書名 Community movements in Southeast Asia : an anthropological perspective of assemblages. (Ryoko Nishii, Shigeharu Tanabe eds)	

1. 著者名 生駒美樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 338
3. 書名 生態人類学は挑む 5 関わる・認める (河合香吏編)	

1. 著者名 斎藤紋子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 東南アジアのイスラームを知るための64章 (野中葉、久志本裕子編)	

1. 著者名 土佐桂子・田村克己 (編著)、飯國有佳子、藏本龍介、斎藤紋子、高谷紀夫、生駒美樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 330
3. 書名 転換期のミャンマーを生きる 「統制」と公共性の人類学	

1. 著者名 藏本龍介	4. 発行年 2019年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 448
3. 書名 宗教と開発の人類学 (石森大知、丹羽典生編)	

1. 著者名 土佐桂子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 368
3. 書名 グローバル化する<正義>の人類学：国際社会における法形成とローカリティ (細谷広美・佐藤義明編)	

1. 著者名 飯國有佳子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 292
3. 書名 呪者の肖像 (川田牧人・白川千尋・関一敏編)	

1. 著者名 土佐桂子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 340
3. 書名 歴史の生成：叙述と沈黙のヒストリオグラフィ (小泉順子編)	

1. 著者名 Tosa Keiko	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Center for Intergrated Area Studies, Kyoto University	5. 総ページ数 224
3. 書名 Mapping Buddhist Cultures among Theravadin in Time and Space. (Kobayashi, Satoru, Hayashi Yukio et al. eds.)	

1. 著者名 TAKATANI Michio	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Tai Society	5. 総ページ数 -
3. 書名 "Material Culture in Shan (Tai/Tay:) Cultural Area (SCA)", Conference Proceedings of the 3rd Conference of Tai Society for Historical Studies	

1. 著者名 田村克己	4. 発行年 2017年
2. 出版社 山川出版	5. 総ページ数 409
3. 書名 ナショナル・アイデンティティを問い直す (川田順造編)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藏本 龍介 (Kuramoto Ryusuke) (60735091)	東京大学・東洋文化研究所・准教授 (12601)	
研究分担者	高谷 紀夫 (Takatani Norio) (70154789)	広島大学・人間社会科学研究科(総)・教授 (15401)	
研究分担者	飯國 有佳子 (Iikuni Yukako) (90462209)	大東文化大学・国際関係学部・准教授 (32636)	
研究分担者	斎藤 紋子 (Saito Ayako) (20512411)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・研究員 (12603)	
研究分担者	生駒 美樹 (Ikoma Miki) (70838797)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・研究員 (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Seminar and Round Table Discussion: Anthropological Study on Religion: Activities of CBOs and NGOs in Myanmar	開催年 2019年～2019年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------